

インド：GDP（2015年7-9月期）

－インフレ圧力緩和と利下げ効果の波及で回復続く－

MRI Daily Economic Points

December 4, 2015

実質GDP成長率



資料: CEIC

政策金利、消費者物価、卸売物価



資料: CEIC, Bloomberg

鉱工業生産、乗用車販売台数



評価ポイント

今回の結果

- インドの15年7-9月期の実質GDP(需要側)は、前年比+7.4%と前期(4-6月期: +7.0%)より加速。輸出低迷が足かせとなっているものの、インフレ圧力の緩和や利下げ効果から消費や投資などの内需を中心に緩やかな回復を続けている。
- GDPの5-6割を占める民間消費は、7-9月期は前年比+6.8%と前期(+7.4%)よりやや伸びは低下したが、既往の原油安を主因とするインフレ圧力緩和を背景に堅調を維持。国内乗用車販売台数も、エネルギー価格の下落を受け、7-9月期は前年比+10.8%と回復基調を続けている。
- 総固定資本形成(GDPの約3割)は、既往の利下げが追い風となり、7-9月期は前年比+6.8%と前期(+4.9%)から加速。インド準備銀行が9月に今年4度目の利下げを実施(レポレート: 7.25%→6.75%)、足元で投資コストの低下を通じてプラス効果が波及しつつある。
- 外需をみると、7-9月期の輸出は中東向け(シェア: 20%程度)や中国向け(シェア: 4%程度)の低迷の影響から、前年比▲4.7%と3四半期連続で減少。輸入は、輸出向けの製品生産に必要な資源や原材料などを海外からの輸入に依存していることもあり、7-9月期も▲2.8%と減少が続いている。

今後の見通し

- 先行きは、①原油安によるインフレ圧力の緩和が消費の下支え要因となっていることに加え、②既往の利下げ効果による投資押上げにより、内需を中心に回復が続くと予想する。
- 一方、今後も中東向けや中国向けの輸出の下押しから、インド経済の回復ペースは緩やかなものにとどまるであろう。上記を踏まえ、インドの実質GDP成長率は、7%前後で推移すると見込む。
- 今後の注目点は米国利上げによる影響だ。財政赤字・経常赤字を抱える同国では、海外からの対内直接投資の動向がインフラ不足解消の重要なカギを握っている。米国利上げ後に対内直接投資の流入ペースが減速する場合、投資への悪影響が及ぶ恐れがあり注意が必要。